

経営比較分析表（令和3年度決算）

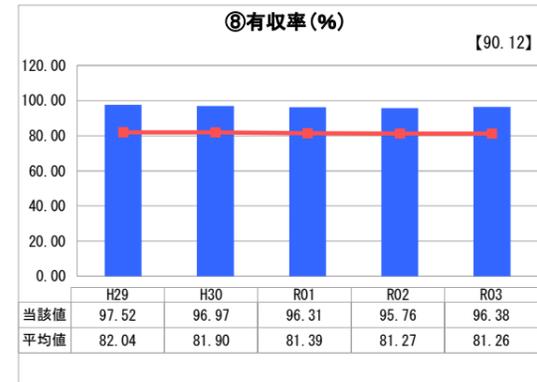
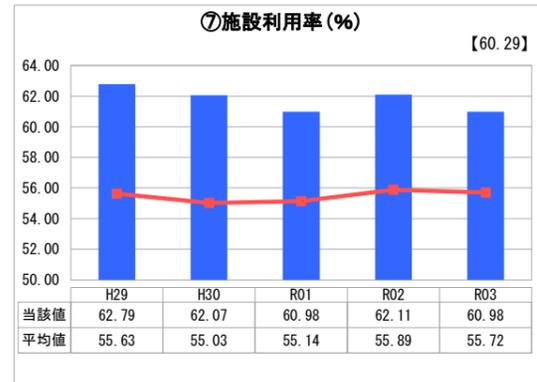
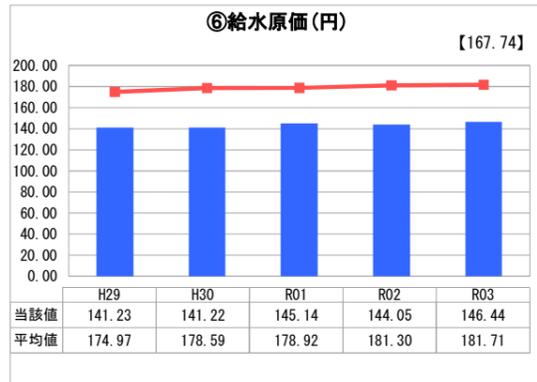
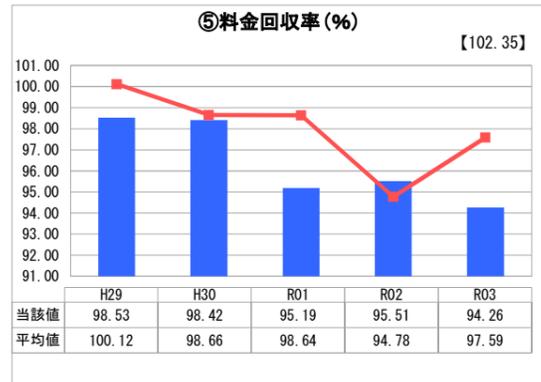
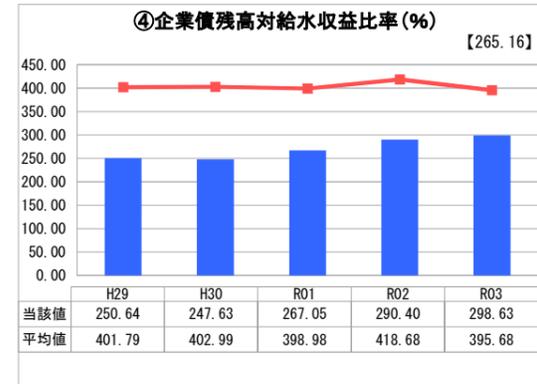
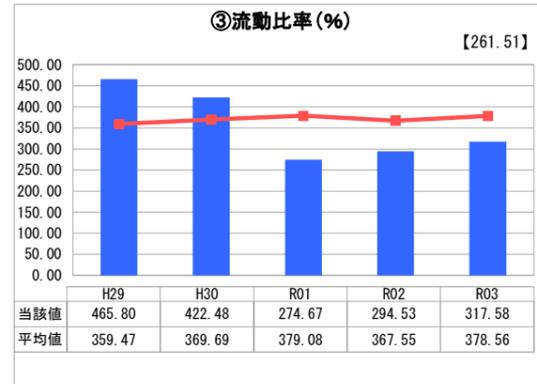
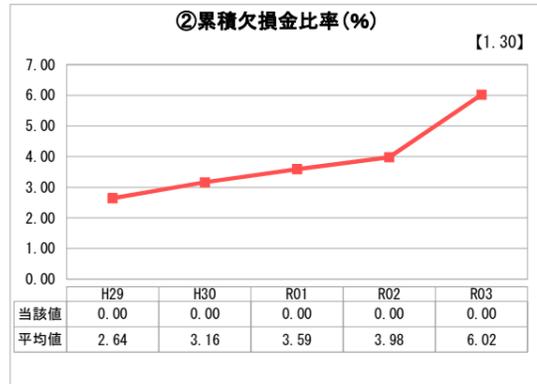
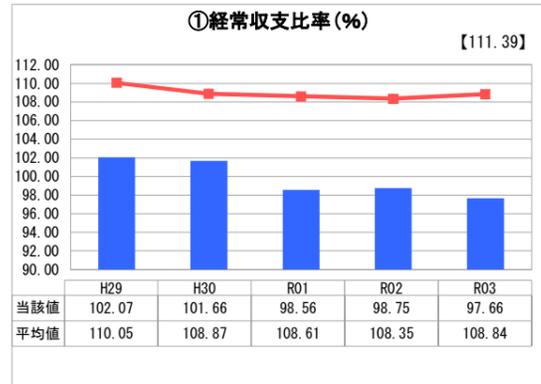
埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	72.46	99.94	1,966	

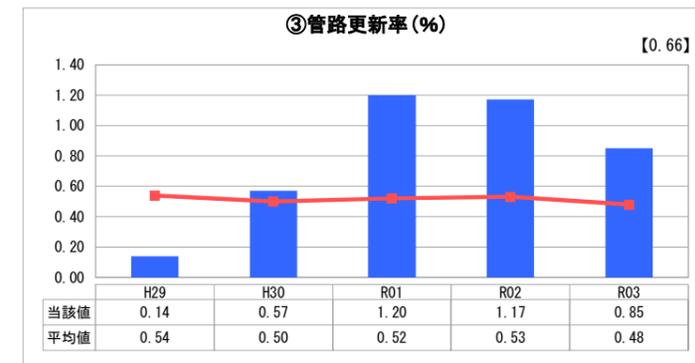
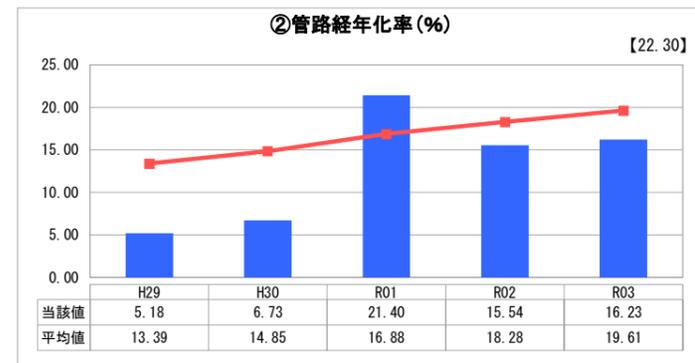
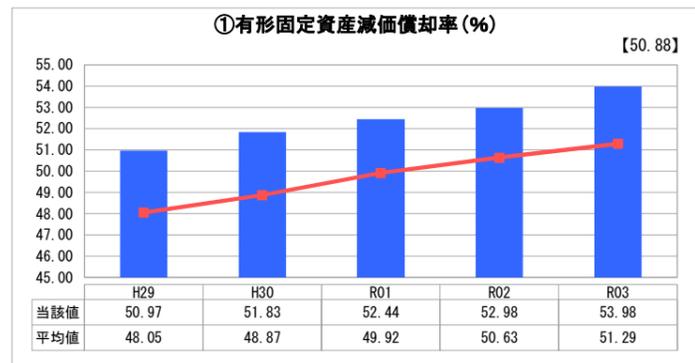
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,345	41.63	464.69
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,269	41.63	462.86

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、平成29年度から県水の受水量を削減し、自己水を増量するなど支出を減らしていますが、水道事業ビジョンによる老朽化施設及び配水管耐震化事業により減価償却費が増加し、100%を下回っています。

② 累積欠損金比率は、0が続いていますが今後施設の老朽化による更新投資が必要となることも想定されることから継続して費用の削減を努める必要がある。

③ 流動比率は、令和元年度に流動比率が減少しているが管路更新のため、企業債の借入を行っているため再び増加傾向にある。

④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均に比べると低い状況です。今後も配水管耐震化事業の財源として企業債の借入を行うため増加すると思われる。

⑤ 料金回収率は、100%を下回る傾向にあるため、今後想定される施設の維持や修繕等の費用を見込んだ適正な供給単価について検討する必要があります。

⑥ 給水原価は、類似団体平均より低い状況です。この状況を保つため、引き続きコスト削減を進めていきます。

⑦ 施設利用率は、類似団体返金より高いが、今後の給水人口の減少等を踏まえ、施設や管路のダウンサイジングを検討していきます。

⑧ 有収率は、類似団体平均より高い状態にあります。今後も高い有収率を維持できるように漏水修繕を行っていきます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行しています。計画的に償却対象資産の更新を行います。

② 管路経年化率は、大規模な宅地開発等で布設した配水管が法定耐用年数を超えたため、令和元年以降高い状態です。計画的に管路の更新を行っていきます。

③ 管路更新率は、配水管耐震化事業により管路を更新したため類似団体平均より高い値となっています。今後も計画的に管路の更新を行っていきます。

全体総括

経営面では、企業債借入について、償還金残高や利息水準などが適切になるよう検討します。また、漏水など水の無駄が生じないよう取り組みます。浄水場施設や配水管では、配水管耐震化事業のほか、アセットマネジメント結果などに基き老朽化施設の更新を進めます。また、水の使用量低下について、将来の水需要に合わせた老朽化施設のダウンサイジングを検討します。加えて、水道事業の広域化を推進します。

町では、水道事業ビジョンや経営戦略などを策定しており、水道事業経営について検討を重ねています。これからも、みなさまが安心して水道をご使用できますように、水道事業経営に努力いたします。

経営比較分析表（令和3年度決算）

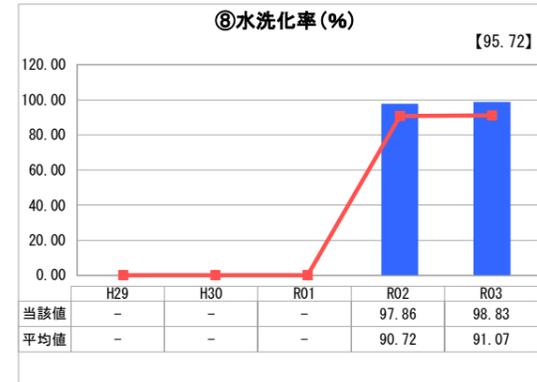
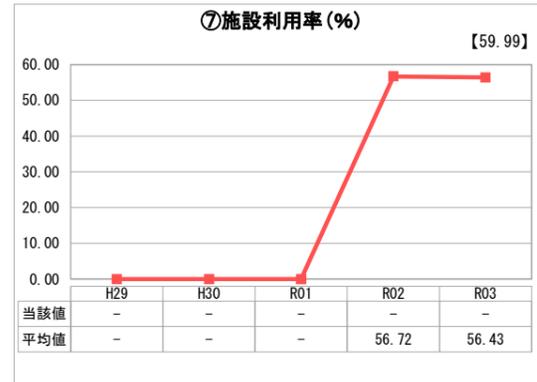
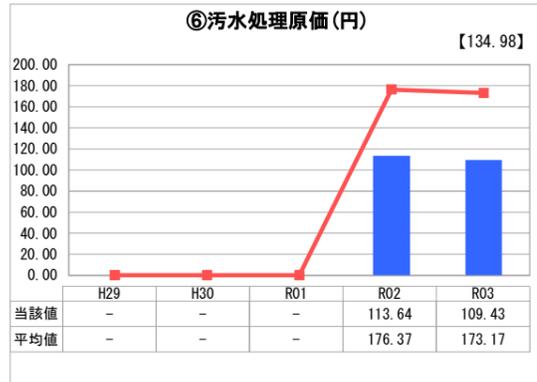
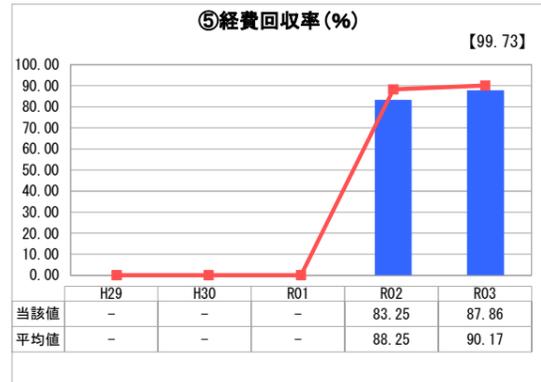
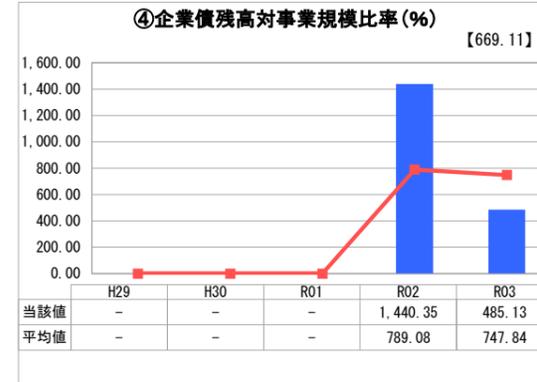
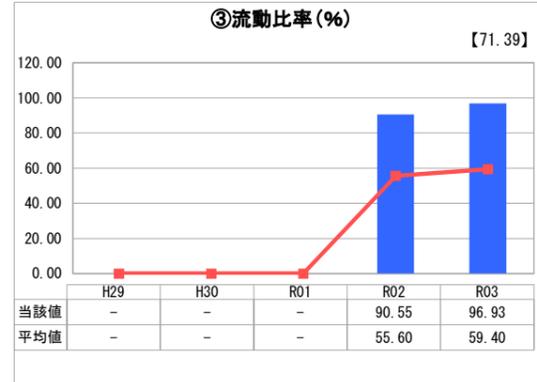
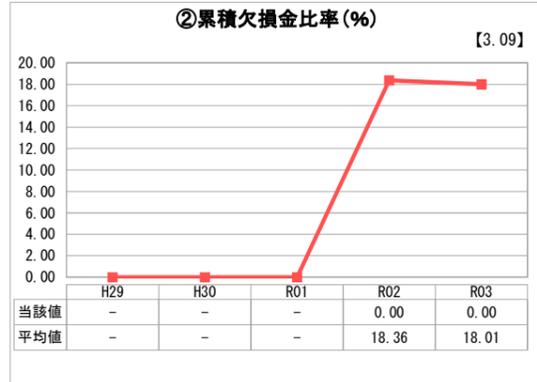
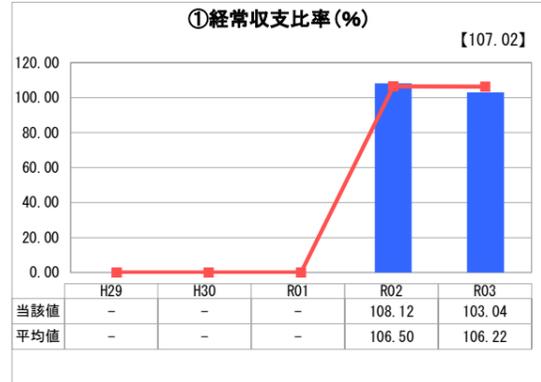
埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	75.18	49.95	89.00	1,540

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,345	41.63	464.69
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,631	3.25	2,963.38

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

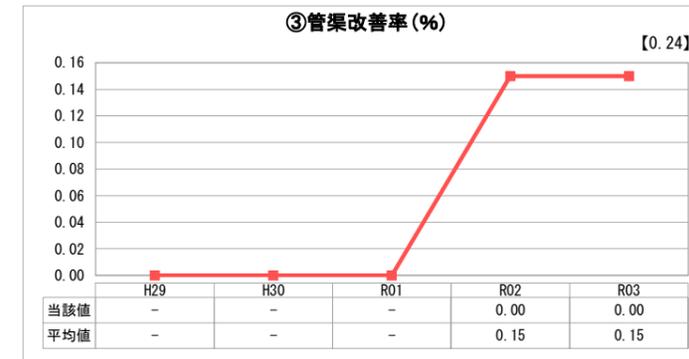
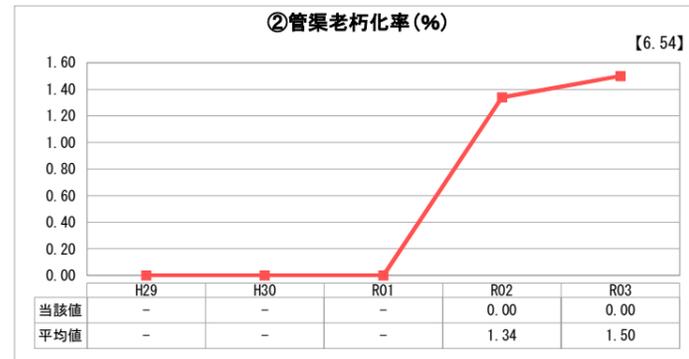
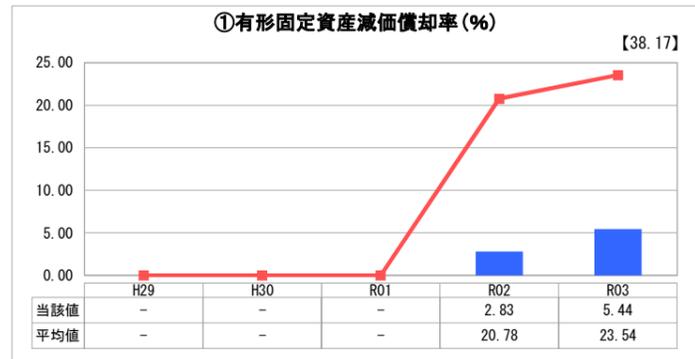
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、全国平均、類似団体平均値を下回っているが、100%は超えていることから単年度収支は黒字となっているため、引き続き適正な経営を行い、財源確保に努めていく。
 ② 流動比率については、全国平均、類似団体平均値を上回っているが、100%には達しておらず、主要な要因として、企業会計に移行したばかりで現金の保有額が少ないためであり、昨年度より上がっていることから、会計年度を経過することで解消すると思われる。
 ③ 企業債残高対事業規模比率については、全国平均、類似団体平均値を下回っている。償還終了に伴い、減少していくが、内水氾濫対策である雨水幹線の整備で新規借入を行っていることから、横ばいが続くと思われる。
 ④ 経費回収率については、全国平均、類似団体平均値を下回っており、100%も下回っていることから、使用料の見直しや汚水処理費用の削減を図っていく。
 ⑤ 汚水処理原価については、全国平均、類似団体平均値を下回っており、効率的な汚水処理が実施できていると考えられる。
 ⑥ 水洗化率については、全国平均、類似団体平均値を上回っており、引き続き未接続世帯に対し指導を行い、引き続き水洗化の向上を図っていく。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況については、令和3年度末において、法定耐用年数を経過している管渠はないが、近いうちに法定耐用年数を経過する管渠が出てくるため、今後は管渠の改築等が必要になると思われる。改築や更新は費用がかかり、経営にも影響が及ぶことから、ストックマネジメント計画の策定等により、計画的かつ効率的に維持管理に努めていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

経費回収率が全国平均、類似団体よりも低く、100%を下回っている。前年度よりは向上しているが、まだ改善の余地があるため引き続き支出の見直しや下水道使用料の改定に向けて、経営戦略と使用料の見直しを検討する必要がある。
 令和3年度では法定耐用年数を経過した管渠等はないが、将来に備えてストックマネジメント計画を策定し、計画的な維持管理を行い、持続可能で安定した経営を図る。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。